令和３年度　第２回　JCHO 東京蒲田医療センター地域協議会議事録

日　時：令和３年 12 月 14 日（火）14：00～15：00
場　所：東京蒲田医療センター　健康管理棟
出席者：外部委員７名
　　JCHO 東京蒲田医療センター委員
　　病院長、副院長３名、看護部長、事務部長、地域連携室長
司　会：JCHO 東京蒲田医療センター　石井　耕司

【議事内容】
１．令和３年度後期報告
　『ポストコロナを見据えた地域医療』をテーマとし、下記事項について石井病院長、伊藤委員より報告を行った。

《石井病院長より報告》
１）新型コロナウィルス感染症患者の入院受け入れ状況
・2020 年２月～2021 年 12 月時点で累計 600 人を超えた。
・2021 年７月より第５波の影響を受け感染患者数が急激に増加し７月～９月の３ヶ月間で 217 人が入院した。
・東京都の感染者数が減少した後は 2021 年 10 月から現在まで入院患者ゼロである。

２）デルタ株が流行した第５波（2021 年７月～９月）の治療経験について
（１）新型コロナウィルス感染症 重症度に応じた当院の治療法
　軽症・中等症・重症化の恐れがある患者への、各種治療法について紹介した。

（２）新型コロナウィルス感染症 第５波時期の治療実績と患者背景
　各種治療法の実施件数と経過、各治療法の対象となる年齢・BMI・入院時 CRP と、各治療後の酸素飽和度・体温の変化や、平均在院日数について説明した。

（３）抗体カクテル療法の実施状況
　2021 年 12 月 14 日現在、７名に実施し副作用無く経過している。

３）今後の展望
　内服の抗ウイルス薬が開発され始めており、第 6 波の際には治療法の選択肢が増えるのではないかと期待する。今後も感染防止対策を継続し、ワクチン 3 回目接種が進む頃には入院することなく自宅や施設で療養できるのではないかと考える。

＜質疑応答＞

外部委員：抗体カクテルは入荷しているか。

病 院 長：厚生労働省から１バイアル（2 人分）入荷している。補充があるが一度に複数人の対応が難しい。

外部委員：新型コロナウィルス感染症の内服薬は特定の病院からの処方になるか。

病 院 長：最初は特定の病院からの処方になると考える（新型コロナウィルス感染症患者は保健所が指定した病院に入院するため）。自宅や施設で療養を指示された場合は保健所より何らかの方法で薬が届けられると予想する。

《伊藤委員より報告》

コロナ禍における当院の訪問看護の実施状況や今後の課題について報告した。

１）当院訪問看護室の特徴

・緩和ケア認定看護師が訪問看護を行い、がんの終末期を自宅で過ごしたいという利用者の体調管理や精神的ケアを行っている。

・感染チームや多職種と連携している。

２）訪問看護で実施した支援内容と件数（2020 年度と 2021 年度の比較）

・血圧測定等の体調管理、清潔援助、服薬指導、精神的ケア、家族指導などの件数が増加した。

・在宅酸素療法の管理、週 1 回自己注射の見守りなども行っている。

・住み慣れた自宅でできる限り過ごし、病状悪化時は速やかな入院を支援をしている。

３）コロナ禍における訪問看護件数の推移（2019 年 4 月～2021 年 12 月）

・新型コロナウィルス感染症第 1 波の時期は訪問看護のニーズが高まり、利用者数・訪問件数ともに増加した。以降も年々増加傾向である。

４）新型コロナウィルス感染症 第 1 波時期の訪問看護利用者とご家族への対応

・感染防止対策パンフレットを作成し配布、または電話で説明した。

・体温計、マスクが無い利用者には購入を勧めたが、売り切れのため購入できない利用者がいた。その後、当院の売店等を活用して全利用者に行き渡った。

・外来定期受診時に自身が感染すると心配される利用者には、主治医と相談し定期受診回数を減らし訪問看護件数を増やした。

・訪問看護師がウィルスを媒介しないように感染防止対策を徹底し、訪問ごとに PPE 物品を交換して安心感を得た。

・自宅で利用者を介護している家族が新型コロナウィルス感染症に感染したケースに対応した。

・2019 年利用者数は 17 名であったが現在 29 名に増加した。訪問看護師は 2.5 人で

対応している。

5）今後の課題

・現在は感染拡大が落ち着きつつあるが油断することなくいつでも的確な対応ができるように準備している。

・ポストコロナにおいても高齢者が安心して住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように支援していく。

2．外部委員の皆様との意見交換

外部委員：大田区での新型コロナウィルス感染症3回目ワクチン接種状況はどうか。

外部委員：現在は医療従事者に対し3回目の接種券を発送している。3回目接種を前倒しで接種できないか検討中である。
大田区はワクチンの入荷が遅かったが大きな接種会場も確保でき、9割の方が接種を終え開業医とも連携がうまく取れている。

病 院 長：ワクチン接種開始時期は、接種希望者に対しワクチンが足りない状況であった。3回目接種についてはいつどのように開始されるわからない状況である。

外部委員：PCR検査外来はどのようなシステムか。

病 院 長：2020年4月から帰国者接触者外来として開始した。大田区保健所からの紹介を受けて来院する患者が対象となる。その他、当院の外来を受診した患者で新型コロナウィルス感染症を疑う場合にPCR検査を随時行っている。
現在は保健所からの依頼件数が減少している。地域でPCR検査が可能な施設が増加しており、患者が分散していると考えられる。

外部委員：（当院へ）入院する患者に対して胸部CT検査を行い、新型コロナウィルス感染症の有無を確認するなどの対策をとっていると聞き安心している。
訪問看護の話を伺い大変よい仕組みだと思った。自宅で利用者を介護している家族が新型コロナウィルス感染症に感染した時に、利用者の受け入れ先がないことが地域包括支援センターで問題となっていた。

外部委員：保健所にコロナの発生届けが毎日FAXで300～400件届き、即日の対応が困難だった。自宅待機者が2000人を超えた頃、夜中に体調が悪化して酸素吸入が必要になった患者の受け入れ先が見つからず、自宅で救急隊が経過観察し、やっと受け入れ先が見つかるなど厳しい状況が続いていた。現在は落ち着いているが今後オミクロン株が心配である。

外部委員：2年間で600人の患者を受け入れたと伺い大変な苦労だったと推察する。
訪問看護の対応については初めて知った。

外部委員：オミクロン株の拡大状況について教えて頂きたい。

病 院 長：現在は検疫で防いでいるが、市中へ拡大すると考える。それまでに、高齢者の3回目のワクチン接種を終えたい。ワクチンの効果を疑う意見もあるが、コロナウィルスが変化したわけではなく有効だと考えている。同時に近日、

内服の抗ウィルス薬の処方が可能になると聞いている。それまでは今まで通り感染対策をしっかり行う事が大切だと考えている。

外部委員：10 月から新型コロナウィルス感染症患者の入院がないと報告があったが、感染症対応病床はいつまで確保しておくのか。

病 院 長：国・東京都・大田区等と協議の上、決定することになる。新型コロナウィルス感染症は都心から放射線状に増える傾向があり、今後も都心の動向に注意しながら適切に対応していきたい。

以上